



[水田作部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. 岡山県の新しい水稻奨励品種「にこまる」の特性

[要約]

水稻品種「にこまる」は、成熟期が「ヒノヒカリ」より3～4日程度遅い中生品種である。高温登熟耐性を有し、精玄米収量と外観品質は「ヒノヒカリ」より優れており、食味評価は「コシヒカリ」並の良食味である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

本県では、夏季の高温により白未熟粒の発生が増加しており、特に県中南部の「ヒノヒカリ」では規格外の多発と収量低下が顕著で、作付面積が減少している。そこで、「ヒノヒカリ」熟期で、良食味であり、高温でも安定した玄米品質と多収性を兼ね備えた品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 「にこまる」は「ヒノヒカリ」より出穂期が2～3日、成熟期が3～4日遅い中生品種である。稈長は「ヒノヒカリ」より5cm程度長いが、耐倒伏性は同程度の“中”で、精玄米収量も優れている。「にこまる」の外観品質は「ヒノヒカリ」より優れ、食味は「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」並の良食味である（表1）。
2. 多肥栽培では、標肥栽培と精玄米収量が大きく変わらず、いもち病の発生が増える傾向がある（表1）。
3. 現地調査では、「にこまる」の精玄米収量は「ヒノヒカリ」より多かった。外観品質は真庭市では「ヒノヒカリ」と同等だが、県中南部では「ヒノヒカリ」より優れる（表2）。
4. 高温により「ヒノヒカリ」の一等米比率が大きく低下した年でも、「にこまる」の一等米比率は高く保たれた（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本品種は令和7年10月2日に岡山県の中南部向け中生品種として奨励品種に選定された。
2. 高温登熟耐性は“中”で、背白粒、基白粒の発生程度が「ヒノヒカリ」より少ない。
3. 葉いもち、穂いもちとも圃場抵抗性は“やや弱”であるため、多肥栽培を避け、適期防除を行う。
4. 穂発芽性は“中”であるが、刈り遅れを避け、適期刈り取りに努める。
5. 移植時期が6月末以降の場合や登熟期間が低温になった場合に、成熟期が遅れて「アケボノ」と収穫・調製作業が競合する場合がある。また、その際には青未熟粒の発生により等級が下落する可能性がある。



[具体的データ]

表1 水稻奨励品種決定調査結果（生育・収量・品質）

施肥 水準	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏 ^z	病害の多少 ^y		精玄 米重 ^x	同左 比率	千粒 重	外観 品質 ^w	食味 ^v
		(月・日)	(月・日)	(cm)	(cm)	(本/㎡)	(0-5)	葉い もち	穂い もち	(kg/10a)	%	(g)	(1-9)	総合 評価
標肥	にこまる	8.29	10.11	89	19.6	320	0.1	1.9	0.7	618	108	23.2	3.6	0.27
	ヒノヒカリ	8.27	10.07	84	19.1	352	0.2	1.1	0.5	574	100	22.7	6.4	0.06
多肥	にこまる	8.30	10.13	88	19.8	305	0.0	2.1	1.3	590	102	23.1	4.6	-
	ヒノヒカリ	8.27	10.10	83	19.6	335	0.0	0.7	1.2	577	100	23.1	5.8	-

注) 標肥はH14～15年、H19～24年、R元～6年、多肥はH14～15年、H19～24年の平均値

標肥は窒素9.0kg/10a、多肥は窒素11.3kg/10a

移植時期は6月14日から6月22日(平均6月19日)、栽植密度18.3株/㎡の3本植え

^z倒伏は0(無倒伏)～5(全倒伏)の6段階評価^y病害は0(無)～5(甚)の6段階評価^x精玄米重は1.8mm以上^w外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価^v食味評価はH19～24年の平均、基準品種を「コシヒカリ」とした+3～-3の7段階の官能評価で数値が大きいほど良好

表2 水稻奨励品種決定現地調査結果（生育・収量・品質）

調査地	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏 ^z	病害の多少 ^y		精玄 米重 ^x	同左 比率	千粒 重	外観 品質 ^w
		(月・日)	(月・日)	(cm)	(cm)	(本/㎡)	(0-5)	葉い もち	穂い もち	(kg/10a)	%	(g)	(1-9)
岡山市	にこまる	8.31	10.18	90	19.9	378	0.2	0.8	0.6	636	105	22.5	5.2
	ヒノヒカリ	8.28	10.10	86	19.6	392	0.0	0.5	0.8	606	100	22.0	6.8
備前市	にこまる	8.28	10.09	89	20.2	349	0.0	0.8	0.0	608	116	23.6	5.3
	ヒノヒカリ	8.25	10.06	87	19.3	328	0.0	0.8	0.0	536	100	23.2	5.5
倉敷市	にこまる	8.29	10.12	90	19.1	315	0.0	0.0	0.0	588	107	23.4	4.0
	ヒノヒカリ	8.25	10.06	86	19.3	331	0.0	0.0	0.0	549	100	23.2	7.8
井原市	にこまる	8.26	10.05	83	17.6	374	0.0	0.0	0.0	602	101	21.1	3.0
	ヒノヒカリ	8.24	10.05	81	17.2	332	0.0	0.0	0.0	595	100	22.5	3.0
笠岡市	にこまる	8.26	10.11	86	19.2	294	0.0	0.7	0.0	500	110	23.5	5.7
	ヒノヒカリ	8.24	10.09	82	18.5	335	0.0	0.7	0.0	472	100	23.0	6.7
真庭市	にこまる	8.30	10.16	89	17.9	349	0.0	1.1	0.5	562	106	22.6	4.3
	ヒノヒカリ	8.27	10.12	89	18.2	377	0.1	1.0	0.5	531	100	22.5	4.3
久米南町	にこまる	8.29	10.18	92	19.5	298	0.2	0.0	0.0	555	106	23.0	4.4
	ヒノヒカリ	8.25	10.10	87	18.9	326	0.0	0.0	0.0	528	100	22.8	6.2

注) 調査期間は、岡山市、久米南町がH20～24年、井原市がH20年、笠岡市がH21～23年、

備前市、倉敷市、真庭市がH20～23年

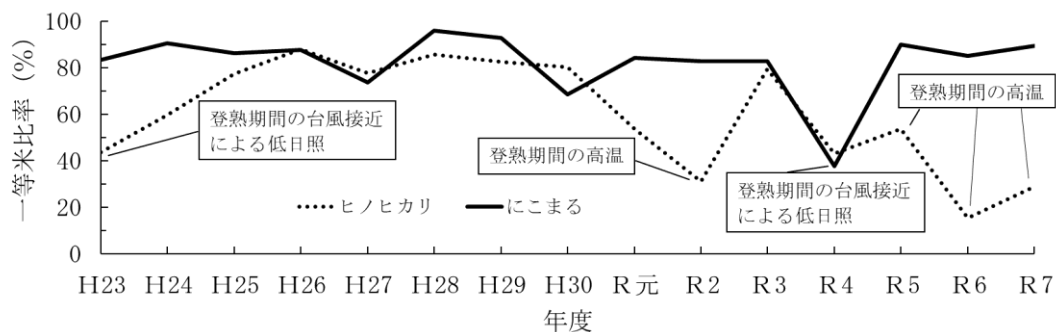
^z倒伏は0(無倒伏)～5(全倒伏)の6段階評価^y病害は0(無)～5(甚)の6段階評価^x精玄米重は1.8mm以上^w外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価

図1 岡山県における「にこまる」と「ヒノヒカリ」の一等米比率の推移と低下要因

[その他]

研究課題名：主要農作物品種試験（水稻）

予算区分・研究期間：県単・平14～令7年度

研究担当者：吉見奈那子、妹尾知憲、前田周平、大久保和男、金谷寛子、中島舞、石井俊雄、日原春幸、新見直子

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[平23\(1-2\)](#)、[平24\(7-8\)](#)、[平25\(1-2\)](#)、[平27\(5-6、7-8\)](#)、[平28\(1-2\)](#)、[令6\(3-4\)](#)